

# 2023年3月期 第1四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社  
2022年8月10日

## 注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2023年3月期第1四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

# 業績概要<sup>1</sup>

[億円]	22年3月期 4Q	23年3月期 1Q	対前四半期
	売上高	3,938	
営業利益	309	851	+542
マージン	8%	23%	+15pt
当期純利益	107	426	+319
マージン	3%	12%	+9pt

## 補足情報

減価償却費 <sup>2</sup>	1,172	1,037	▲135
不純物を含む部材を起因とする操業影響額 <sup>3, 5</sup>	▲332	-	+332
PPA影響額等 <sup>4, 5</sup>	▲228	▲148	+80
法人税等費用	37	156	+119

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第1四半期におけるEBITDAは、営業利益851億円に減価償却費1,037億円を加算した1,888億円となりました。
3. 2022年1月下旬に発生した3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の特定の生産工程における不純物を含む部材を起因とする四日市工場と北上工場での操業影響による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費を含む営業利益への影響額です。

4. Pangeaによる旧TMCの買収と台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工場で発生した停電影響額です。
5. 営業利益から不純物を含む部材を起因とする操業影響額及びPPA影響等（以下「Non-GAAP調整額」）を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第1四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益851億円からNon-GAAP調整額▲148億円を除外した999億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益426億円からNon-GAAP調整額▲148億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて528億円となりました。

# ハイライト (1/3)

## 足元の実績及び動向

	22年3月期 4Q	23年3月期 1Q
出荷量 <sup>1</sup> (QoQ)	1桁%台前半の 増加	20%台前半の 減少
販売単価 <sup>1</sup> (¥, QoQ)	横ばい	10%台前半の 上昇

1. 記憶容量ベース

- 第1四半期連結会計期間は、前四半期に発生した不純物を含む部材を起因とする操業影響並びに新型コロナウイルスの感染拡大による後工程外注生産及び物流倉庫の稼働影響（6月以降正常稼働に復帰済）によって出荷量が減少し、売上収益は前四半期比で減収
- 一方で、前四半期における不純物を含む部材を起因とする操業影響による損失計上及びIFRSに基づく固定資産税の一括計上等の一時的なコスト増要因が当四半期はなくなったことに加え、円安の影響もあり、営業利益は前四半期比で増益
- ドルベースの販売単価は1桁%台前半の上昇となる中で、円安の寄与により、円ベースの販売単価は前四半期比で10%台前半の上昇

## ハイライト (2/3)

### 製品開発・技術開発

- 業界初<sup>1</sup>の「XFM DEVICE Ver.1.0」規格準拠のリムーバブルストレージデバイス「XFMEXPRESS™ XT2」の評価用サンプルの出荷
- 次世代高速インターフェースPCIe® 5.0<sup>2</sup>対応に向けたエンタープライズSSDの評価用サンプルの出荷
- ストレージクラスメモリ「XL-FLASH™」第2世代品の開発

1. 2022年6月14日時点。キオクシア株式会社調べ

2. PCIeはPCI-SIGの登録商標です。

### 特定半導体生産施設整備等計画の認定について

- キオクシア株式会社及びキオクシア株式会社とウエスタンデジタルコーポレーションの製造合弁会社は、最大約929億円の助成金が交付される予定となる、四日市工場第7製造棟における「特定半導体生産施設整備等計画」の認定を受けた

### 市場動向及び見通し

- 世界的なインフレの昂進と景気後退懸念、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、新型コロナウイルス感染拡大によるサプライチェーンへの影響などを背景に、第1四半期の半ばから消費マインドが悪化傾向。PCやスマートフォン向けのフラッシュメモリ需要が弱含んでいる
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、中長期的にはクラウド向け投資や企業のIT投資を背景に堅調という見方の一方で、短期的には部品不足や景気後退懸念を背景にした客先の在庫調整によってマイナスの影響が現れており、今年後半の状況を注視している状況
- マクロ経済の不確実性が高い状況が継続しているものの、NAND市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない

**KIOXIA**